

令和2年度第6回教育研究評議会議事録

日 時 令和2年10月21日(水) 14:30～16:25 TV会議
場 所 事務局5階大会議室、事務局別館1A会議室、S-P o r t 3階会議室
出席者 石井、丹沢、木村、東郷、池田、大場、手島、寺村、小谷、河合、笹原、
白井(Web参加)、日詰、田島、江口尚、熊倉、近藤、小西、田中、北村、
川田、喜多、森田、鳥山、江口昌、原、三村、朴、澤田の各評議員
陪席者 鈴木、河島の各監事、青木、藤井、宮原の各学長補佐

I 前回議事録の承認について

令和2年度第5回教育研究評議会議事録(案)を原案どおり承認した。

議事進行の都合により、審議事項の前に報告事項3を行った。

II 審議事項

1 新法人設立・大学再編について

議長から、新法人設立・大学再編について、資料1-1により、合意書締結後の会議等の開催状況、資料1-2により、第22回静岡大学・浜松医科大学連携協議会(令和2年9月10日)の報告があった。

また、浜松市が10月14日に「浜松地区大学再編・地域未来創造会議(仮称)」の設置を発表したとの報告があり、意見交換を行った。

<議長の主な説明>

- ・ 浜松市が設置する「浜松地区大学再編・地域未来創造会議(仮称)」について、委員の選出要請があり、委員となった。構成員及び設置の趣旨は以下のとおり。

構成員：鈴木康友浜松市長(座長)、鈴木育男浜松市議会議長、大須賀正孝浜松商工会議所会頭、御室健一郎浜松いわた信用金庫理事長、滝浪實浜松市医師会長、伊東幸宏浜松地域イノベーション推進機構フotonバレーセンター長、望月英二同機構次世代自動車センター長、石井潔静岡大学長、今野弘之浜松医科大学長

設置の趣旨：平成31年3月29日に「国立大学法人静岡国立大学機構設立及び大学再編に関する合意書」によって締結された、静岡大学と浜松医科大学の法人統合・大学再編を踏まえ、地域が一体となり、産学官のより一層の連携強化等、大学と地域の未来に向けた発展的な協議を行う

- ・ 第1回の会議は、10月28日に開催され、同日には、浜松医科大学との連携協議会も行われる。両会議とも、来年4月以降の新体制でこの再編をどう扱っていくのか話題になると思われるため、日詰次期学長候補者の意見をお聞きし、質問が出た際には、私から回答することとしたい。現時点での日詰次期学長候補者のスタンスを学内的に説明する場としても、今日はふさわしいと思うので、発言いただきたい。

<日詰次期学長候補者の主な発言>

基本的に、浜松医科大学との関係そのものを損なうことのないようにというのが学長選考

会議の意向であると伝えられた。

意向投票に向けての様々な意見交換会の場で基本的な考え方（法人統合については文句なしで進め、大学再編についてはもう少し違う枠組みを検討してみたらどうだろうか）を説明・問題提起し、その結果、こういう形となった。学長選考会議では私自身のそういう立場・スタンスが非常に心配であるということを伺っており、今後、一人の候補者として話すという場合と、大学を背負って対応しなければいけない部分というのがあるため、その場合には自分の考えというものを一定程度抑えていかなければいけないと考えている。

この法人統合・大学再編案については、既に進行している案を賛成している方々、反対している方々、双方いるため、その方々の意向・意見をある程度受け止めていく、しっかり聞いていくことがとても大事であると考えている。そういう状況の中で、皆様がうまく納得できるような着地点というものを探っていくことを榊議長からは伺っている。

非常に難しく、私自身の力でそこまで及ぶのかと大変なプレッシャーがかかっているが、そういうプロセスを踏まない限り、合意点を見出すことはできないだろうと考えている。特に浜松地区の先生方の思いを十分に受け止めきれない部分もあるだろうと思っており、今後、浜松に行き、先生方と色々な形で対話をしたい。

そして、最終的にどこかお互いに理解できる、また合意できる部分を探っていく努力を続けてみたい。そういう状況の中で、何かよいアイデアや工夫ができ、今、静岡大学が抱えている課題に何らかの着地点を見出すことができるのではないかと考えている。

皆様のご理解、お力添えがどうしても必要になるため、協力いただきたい。

<委員から出された意見等>

- ・ 北村委員から、医学・理系を含めて、世界の動きが速く、それに追いつくために時間との勝負ということもある。学長の任期は4年間であるが、スケジュール感の関心は我々も向こうも高いと思っている。すぐにはお答えしかねると思うが、スケジュール感を持って行っていただけると、向こうの理解も得られるのではないかとの発言があった。

これに対し、日詰委員から、相互に歩み寄れる部分を見出すということが一番大きな課題であるため、時間も一定程度必要だと思うが、かといって長々と続けるわけにはいかないと考えているとの発言があった。

2 静岡大学未来創成基金規則の一部改正について

議長から、静岡大学未来創成基金規則の一部改正について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

3 静岡大学大学院第一種奨学金返還免除に関する規程の一部改正について

坂下学務部長から、静岡大学大学院第一種奨学金返還免除に関する規程の一部改正について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 令和3年度非常勤講師所要時間数について

丹沢委員から、令和3年度非常勤講師所要時間数について、資料4により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

また、丹沢委員から、各学部に配分された色付けポスト(共通教育等担当教員指数)の退職後の不補充分に関しては、今後、各学部で計画的に採用いただきたい

いとの要請があった。

<委員から出された意見等>

- ・ 手島委員から、非常勤講師所要時間数については、第4期中期目標期間に向けたファイナンシャルプランの作成並びに全体の人件費管理の観点から今後の検討が必要であるとの発言があった。

5 国立大学法人静岡大学及び一般社団法人みんなの認知症情報学会並びに加賀市による自立共生支援A Iを活用した健康長寿のまちづくりに関する連携協定について

木村委員から、国立大学法人静岡大学及び一般社団法人みんなの認知症情報学会並びに加賀市による自立共生支援A Iを活用した健康長寿のまちづくりに関する連携協定について、資料5により提案があり、審議の結果、標題及び前文の「国立大学法人静岡大学及び一般社団法人みんなの認知症情報学会並びに加賀市」を「国立大学法人静岡大学、一般社団法人みんなの認知症情報学会及び加賀市」に修正し、これを承認した。

III 報告事項

1 令和2年度第7回企画戦略会議（令和2年10月7日）報告

議長から、令和2年度第7回企画戦略会議（令和2年10月7日）について、資料6により報告があった。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染者発生時の学内周知については、個人情報観点から情報開示の内容は限定したものとするとの報告があった。

また、新型コロナウイルス感染症について、意見交換を行った。

<委員から出された意見等>

- ・ 小谷委員から、マスクを着用していない学生、教職員を見かけるが、気が緩んできたように思われる。再度、マスク着用について励行いただきたいとの要請があった。
- ・ 丹沢委員から、新型コロナウイルス感染症の対策の観点から、後期の定期試験の在り方について部局の意見を聞きたいとの発言があった。

これに対し、川田委員から、定期試験を受けたくないという学生への対応を検討いただきたいとの発言があった。

また、日詰委員から、前期の定期試験で250人程度の必修科目の試験を非対面で実施したがうまくいかなかったため、対面での実施を希望するとの発言があった。

- ・ 小谷委員から、前期の定期試験でオンライン試験を実施した際に学務情報システムが停止し、試験が成り立たないことがあったが、学務情報システムは改善されたのかとの質問があり、丹沢委員から、まだ改善されていないとの回答があった。
- ・ 丹沢委員から、現状の教室使用である5割の定員では、対面での試験室を用意できないという問題が生じたので、この問題を解消するため、通常の教室使用に戻すことを検討しているとの発言があった。
- ・ 森田委員から、後期の定期試験の教室使用の在り方を次年度の講義についても適用するのかとの質問があり、丹沢委員からそのようには考えていないとの回答があった。
- ・ 森田委員から、次年度の講義の教室使用に関しても検討いただきたいとの要請があり、丹沢委員から検討するとの回答があった。

2 平成29～令和元年度に係る学長の業績評価（最終評価）について

近藤委員（学長選考会議副議長）から、平成29～令和元年度に係る学長の業績評価（最終評価）について、資料7により報告があった。

3 次期学長候補者について

近藤委員（学長選考会議副議長）から、次期学長候補者は日詰一幸氏に決定した旨、資料8により報告があった。

<委員から出された意見等>

- ・ 北村委員から、学長候補者の決定についての公示の選考理由の中に、「国立大学法人静岡国立大学機構設立及び大学再編に関する合意書を尊重し、対応していくことを期待する」とある。また、この合意書に沿った実施を掲げた川田先生の抱負には、「やる気のある地方国立大学の定員増」を活用した静岡キャンパスへの新学部設置の検討があり、これは、第4回静岡大学将来構想協議会で決定された「大学統合の手法」と「静岡地区大学の将来像」に関する意見を集約するための専門家を交えたWGの設置を踏まえたもので、静岡市や大学内の意向をもとにした静岡キャンパスの拡充による現状の打開策の一つであると考え。

新学部の内容として、例えば、静岡県にない地盤工学、都市計画などの防災に関わる非常に高度な教育・研究などを含み、この静岡キャンパスにおける新学部設置の検討は、大学再編の形式に関わらず、本学並びに静岡市及びその周辺自治体・静岡県にとってプラスになる。特に、本学にとっては、1995年の情報学部の開設以来、30年ぶりの新学部設置であり、静岡キャンパスでは1965年の人文学部・理学部の発足以来、60年ぶりの新学部設置なので、宣伝効果も期待できると思うとの発言があり、手島委員に対し、「やる気のある地方国立大学の定員増」を行う場合の申請の時期について質問があった。

これに対し、手島委員から、具体的なスケジュールは示されていないが、いわゆる骨太方針で、「経済財政運営と改革の基本方針2020」の本年7月17日の閣議決定で、魅力的な地方大学の実現等のための改革パッケージを本年末を目途として策定することになっていること。現在、内閣官房で、地方創生に資する魅力的な地方大学の実現に向けた検討会議が設置され、そこで検討が行われていること。パッケージの策定にあたっては、それまでの政府・閣議決定された文書等で、STEAM人材育成等に必要な地方国立大学の学部定員の増加等を検討することが盛り込まれているので、このパッケージにもこういったことが行われると思われること。これまでは、国立大学の学部定員は抑制的であったが、それを変えるということを検討するということで、文科省からの情報では、令和4年度からの第4期中期目標期間中に増加させることを含めた検討が行われるという状況である。文科省からは、具体的な構想があれば、早めに相談いただきたいと言われているとの回答があった。

- ・ 北村委員から、静岡県内の防災上、工学部にも土木関係や地盤工学、都市計画などの本格的な大学院を含めたものがないので、是非、日詰次期学長には、石井学長とご相談の上、地方大学では定員増という機会は今後あるかどうか分からないので、この機会を逃すことなく、新学部設置のための申請書の作成や申請書作成のワーキンググループの設置について検討いただきたい。防災総合センター長の立場からも全面的に協力したいとの発言があった。

これに対し、議長から、静岡キャンパス部局長等連絡会において、第4期中期目標・中期計画の策定にあたり、静岡キャンパスの将来像について部局等で話し合う枠組みについて議論いただいたこと、新学部の構想の検討を理学部及び農学部で行っていると紹介があり、学生定員増につながる部局の構想については考えて行かなければならないと思っているとの発言があった。

また、日詰委員から、静岡県内で建設工学系の人材育成の場がないことは、静岡県や静岡市から要請や問題提起が出されているので、どういう形で展開するのが一番よいのか、今後検討していかなければいけないと思っており、要望ということで受け止めたいとの発言があった。

また、議長から、文部科学大臣は、私立大学とハレーションを起こすことのないよう、地域連携プラットフォームの構築を検討するよう言われており、県内の大学との調整等、これから考えることになるとの発言があった。

- ・ 笹原委員から、学長適任候補者の抱負等発表会の開催方法について意見を出したいが、学長選考会議で今後議論する予定があるのか質問があり、近藤委員から、今後も二か月に1回程度、学長選考会議を開催し、今回の学長選考のプロセスを踏まえて、そのプロセスの在り方、今回の反省点の振り返り、次期学長選考に向けたプロセスの改善を議論することになっているとの回答があった。

4 令和元事業年度及び第3期中期目標期間（平成28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会によるヒアリング報告について

河合委員から、令和元事業年度及び第3期中期目標期間（平成28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会によるヒアリング（令和2年9月15日）について、資料9により報告があった。

5 プロジェクト研究所の設置について

木村委員から、プロジェクト研究所の設置4件について、資料10により報告があった。

<委員から出された意見等>

- ・ 鈴木監事から、理学部から申請がない理由があるのかとの質問があり、木村委員から、この2年間については他機関との連携が組みやすい組織が申請されてきたが、今後、理学部からも申請があることを期待するとの発言があった。
また、田中委員からは、部局に持ち帰り、周知するとの発言があった。
- ・ 近藤委員から、研究所の設置申請と客員教員の選考手続きの関係に不具合があるので、制度を検討いただきたいとの依頼があり、木村委員から検討するとの回答があった。

6 THE世界大学ランキング2021 静岡大学の結果と状況について

東郷委員から、THE世界大学ランキング2021 静岡大学の結果と状況について、資料11により報告があった。

7 静岡刑務所及び静岡大学学生支援センターにおける木屑再利用連携協力事業協定の締結について

寺村委員から、静岡刑務所及び静岡大学学生支援センターにおける木屑再利用連携協力事業協定の締結について、資料12により報告があった。

8 静岡大学スチューデントアンバサダープログラムについて

藤井学長補佐から、静岡大学スチューデントアンバサダープログラムについて、資料13により報告があった。

9 令和元年度監事業務監査改善要望事項に対する改善措置事項について

東郷委員から、令和元年度監事業務監査改善要望事項に対する改善措置の令和2年9月末現在の状況について、資料14により報告があった。

<委員から出された意見等>

- ・ 鈴木監事から、浜松医科大学との大学間連携（一法人複数大学化）への取り組みについて、以下の要請があった。

整理番号1 ステークホルダーとの話し合いを進め、説明を行う仕組みを検討いただきたい。

整理番号2 未来社会デザイン機構については、加速度的に議論を深め、静岡キャンパスの意見統一・合意を形成いただきたい。

整理番号3 補助金採択に際して特に重要な目標課題（KPI）については、十分配慮して運営いただきたい。

整理番号4 昨年度行った事務局のヒアリングでは、決定が速ければ速いほど事務負担が少なく済むとの意見があったため、現執行部と日詰次期学長候補者には連携をとっていただき、円滑に進めていただきたい。

IV その他

1 静岡県三大学連携シンポジウムの開催について

朴委員から、11月17日に開催（Zoom 配信）する、第2回静岡県三大学連携シンポジウムの開催について、資料15により案内があった。

<委員から出された意見等>

- ・ 近藤委員から、本件に限らず、ポスターには、QRコードだけでなくURLも記載いただきたいとの発言があった。

2 グリーン科学技術研究所 News Letter Vol.8 について

朴委員から、グリーン科学技術研究所 News Letter Vol.8 について、資料16により案内があった。

以上